

問1 40代が56%。30代が35%で大半を占める。

問2 約4分の3が女性（母親）。

問3 ①よく考える、②時々考えるでの回答の合計で90%を占め、大半の人が温暖化問題に一定の関心を持っている結果となった。

問4 回答の多い順に、①地球温暖化、⑥ゴミ・廃棄物、⑨食糧問題、②森林破壊、③大気汚染となった。環境問題といった語句で、すぐに連想するものとして、一定の知識を有していたり、関心を持っているものの順になったと思われる。

なおこの設問の多くは、互いに関連していたり、Aの結果Bがおこるといった要素があるため、今後、住民への普及啓発を図る中で、正確な情報提供が必要と思われる。

問5 ①多少生活に不自由を感じても積極的に取り組みたい、②出来る部分があれば取り組みたいの回答合計で、約95%を占め、温暖化対策への家庭での取組に積極的な人が、大半という結果になった。

問6・問7 主に3つのグループに分けられる。問6の行っている・今後行いたいが多いグループ（Aグループ）、問7の取り組むのが難しいが多いグループ（Bグループ）、問6・問7の回答数が拮抗しているグループ（Cグループ）である。

Aグループに入るのが、6. アイドリングストップ・急発進、急加速をしない、10. コンセントを抜く、18. リサイクル製品、詰め替え商品等を買う、20. 食べ残しを減らす、22. マイバックの利用、27. 分別回収、28. ゴミの減量等である。

Bグループに入るのが、2. 家族での車の共用、3. 知り合い同士での相乗り、4. カーシェアリング、9. 車を持たない、24. 地元材の住宅購入等である。

Cグループに入るのが、1. 公共交通機関の利用、8. ハイブリットカー等高燃費車に乗る、13. 省エネ機材の設置、15. 地元産食材の購入、19. カーボンオフセット等である。

Aグループの特徴は、比較的本人が意識すれば、日常の生活ですぐに取り組めることであり、また費用的な負担も余り掛からない物が多い。

Bグループは、車関連のものが多い。問8での自由意見にも多かったが、木曾の地域特性から、現状で車利用を制限した生活が難しいというのが、多くの人の総意と思われる。

Cグループは、費用負担を伴うものが多い。生活に余裕のあるなしで、意見が割れたものと思われる。

問8 自由回答集計（回答の多い順）

- マイカーは是→6人
- 安価なハイブリッドカー購入→5人
- 家電コンセント抜くなどの省エネ行動→4人
- ノーマイカー→3人
- ゴミ分別→3人
- ペレットストーブ、太陽光発電条件付賛成→3人
- マイ箸→3人
- 公共負担>個人負担→3人
- 古着フリーマーケット出品→3人
- カーシェアリング不能→2人
- 不自由感じぬ省エネ法→2人
- 原子力エネルギー→2人
- 薪使用→2人
- 生ゴミ堆肥化→2人
- 油を紙で拭き取る→2人
- 近間のマイカー使用禁止→2人
- 大人は楽観的1
- 子どもがわかるキャッチフレーズ1
- 「知っている」から「している」できていない1
- 公共交通機関使用不可1
- リサイクルは地球のため？1
- 公共福祉>道路整備1
- 地球規模の取り組みと宇宙開発1
- 地球修繕は不能1
- 打ち水1
- 食の安全1
- 朝型生活1
- 化石燃料の合理的使用1
- 町のリサイクル不十分1
- 過剰包装↓→1
- ペットボトル→瓶に戻す→1
- 意識低く取組み無し→1
- ペレットストーブメンテナンス？→1
- イベント時のエコブース設置→1
- 遊歩道のトイレ、ゴミステーション→1
- デポジット制度→1

- 雪に強いハイブリッドカー→1
- 合成洗剤↓→1
- 便利は人のためならず→1
- 風力・水力発電↑→1
- 酢 ×漂白剤→1
- カラマツ私有林整備→1
- 自給自足↑→1
- 省エネ家電使用→1
- 風呂水洗濯使用→1
- 1つの部屋で家族集結→1
- チラシの裏をメモに→1
- TV 見ない日つくる→1
- 途上国や孫への責任→1
- 個人意識変革→1
- 電車通勤奨励企業→1
- 排ガス↓マフラー→1
- CVS24 時間営業見直し→1
- ワット数↓→1
- エコ商品の特典化→1
- 捨てられたところにも人がいる→1
- 大人が子どもの範を示す→1
- 早寝早起き朝ごはん→1
- 給湯温度調整→1
- 仲間作り→1
- 原発反対→1
- ユビキタス（いつでもどこでもだれでも便利）反対→1
- 住宅高断熱化→1
- 環境教育→1
- エコバッグの好影響→1

問9 自由回答集計（回答の多い順）

- 自給自足→36人！
- 国産品愛用→20人
- 農業担い手確保→17人
- 休耕地の活用→17人
- 地産地消→16人
- 農業補助金↑→11人

- 農家支援↑→10人
- 家庭菜園（クラインガルテン）→10人
- 検疫↑→9人
- 食育↑→8人
- 消費者の意識変革→8人
- 農政転換→7人
- 公的農地保全→6人
- 手づくり料理↑→4人
- 産消提携→4人
- 行政の指導力↑→4人
- 株式会社の農地取得→3人
- 虫がついているからこそ安全→3人
- フードシステム変革→3人
- 食べ残し↓→3人
- 兼業農家化→2人
- 減反中止→2人
- 地場産業振興→2人
- ローカルブランド開発→2人
- 三ちゃん農業（じいちゃん・ばあちゃん・かあちゃん）変革→2人
- 農業ノウハウの伝授→2人
- 旬は旬のうちに→2人
- 食べる＝生きる→2人
- 灌漑システムの向上→2人
- シルバー人材の就農→1人
- 都市→農村人口移動→1人
- 保護政策不要→1人
- 世界人口↓→1人
- 豊作貧乏→1
- 価格高騰とマネーゲーム→1
- 選挙で食に強い人を選ぶ→1
- 地元農家への尊敬→1
- コメ中心に変える→1
- 原産国チェック→1
- 農地シェアリング→1
- 農家の自助努力→1
- 国産品価格↓→1
- 輸入是→1

- もったいないの復活→1
- モラルハザード→1
- 国内食品加工工場振興→1
- 適切な価格設定→1
- 会議の開催→1
- JAの民営化→1
- トラック→鉄道輸送→1
- 中山間林業振興→1
- 食品に対する厳しい目→1
- 規格外品の販売→1
- 給食は安全→1
- 途上国には医療と教育を、食は輸入→1
- 自分は3K（きつい・きたない・きけん）に携われない→1
- 伝統食振興→1
- 参加型農業→1
- 農業>工業に変革→1
- 農業>軍事に変革→1
- 見栄え良く高い→安全美味安価→1
- 水の浄化→1
- 獣害対策→1

問10 1. ②将来考えたいが、約49%。④考えていないが、約39%で、この2つの設問にほぼ2分された。④考えていないへの理由として、多い順に、借家のため、コストの問題、家の構造上の問題、置き場所の問題となった。

問10 2 ②将来考えたいが、約56%。④考えていないが、約41%で、1同様、この2つの設問でほぼ2分した。④考えていないへの理由として、コストの問題を挙げる意見が大半であった。

1, 2を通して、やや将来の導入を検討している者の方が、多い結果となった。ネックとなっている問題について、コストであれば、補助制度の紹介等、積極的な周知、対策を検討していけば、これらの省エネ機材の導入を促進できるものと思われる。

問10 3 小中学校が1位で約48%、役場庁舎が2位で約25%の選択率。それ以下は、それほど差異がない結果となった。小中学校がよいとする理由としては、やはり、子供達への環境教育の面という意見が多数あった。役場庁舎にという意見の理由としては、公共施設としてまず導入すべきという意見が多かった。

問10 4 ペレット工場の建設可否について、賛成が約17%、反対が約26%、わからないが約57%という結果となった。設問の説明文に、赤字となる可能性が高いことを説明したこともあり、賛成数が少ない結果となったが、過半数がわからないという意見となり、環境保全と経済性の両立の難しさからか、回答者も選択しがたい問いとなったと思われる。

問11 それほど有意な差は生じていないが、回答の多い順に、②道路特定財源の振替、⑪企業の自主努力、⑨価格の上乗せ（カーボンオフセット）、⑥法人税率の引き上げ、⑭新たな負担はする必要ないの順になった。②はアンケート期間が、国会で道路特定財源について議論になっていた時期のため、一般への周知が進み、道路よりも環境へといった意見が多くなったものと思われる。⑤、⑥、⑧、⑪といった設問は、企業や高所得者に多く負担を求めるものであるため、こうした設問にもっと集中するかと思われたが、①環境税の創設や、⑨、⑩といった一般の人にも負担が掛かる設問を選ぶ人も多くおり、全体ではないが、一定の理解は得られていると思われる。

一方具体的な一世帯当たりの年間負担可能額に対する問いでは、未記入・わからないという回答が、全体の46%を占め、0円という回答を含めれば、58%と過半を占め、温暖化対策に対して、個人個人が負担をしていかなければいけないというコンセンサスまでは、まだ難しい状況か。

個別意見として上げられたものの大半が、税金の無駄使いに対する行政不信であり、こうした意識の払拭が必要である。

問12 設問内容の行政に対する要望に留まらない多様な意見が有った。傾向分析を行うべきものではないため、個々の意見を個別に判断するべきと思う。